

令和4年6月17日

「スマート農業産地モデル実証(ローカル 5G)」に関する追加 Q&A

Q17 公募要領 p.8「10 契約上支払対象となる経費 (1) 事業費の対象となる経費」に記載されている「委託経費の上限は総額1億5千万円まで」というのは、2年度分の総額としての上限ですか？

A17 委託経費の上限の総額1億5千万円は、年度ごとの上限です。

Q18 全ての農家(生産者)の概要を提案書に記載する必要がありますか？

A18 提案いただくスマート農業技術の実証を行っていただく全ての生産者の概要を提案書に記載してください。提案書の p.1(4)につきましては、実証を行う生産者の数だけ、表をコピーして記載してください。提案書の p.1(5)につきましては、実証を行っていただく総面積を記載してください。

Q19 実証に参加する生産者すべてに対して経営データの提出を求めるということでしょうか？

A19 個々の実証経営体が提出していただく経営データにつきましては、1戸以上の生産者に提出をお願いするということになっていまして、事業費が配分される生産者には、すべての生産者に提出をお願いしています。

スマート農業技術の実証を行うすべての生産者に事業費が配分されない場合でも最も利用面積の大きい1戸以上の生産者に提出をお願いします。

また、個々の経営データとは別に、実証に取り組んでいただく産地としての経営改善効果を検証するためのデータの提出もお願いします。

提出していただくデータ項目は公募要領の別紙2に記載していますので、参照してください。

Q20 実証に参加する生産者は、すべてコンソーシアムに参画する必要がありますか？

A20 事業費で導入していただく機器は、コンソーシアム構成員以外に貸出・利用していただくことはできませんので、提案いただくスマート農業技術の実証を行っていただく生産者は、全てコンソーシアムに参画してください。

また、JAの品目部会や集落営農組織、生産・集出荷グループなどの農業団体としてコンソーシアムに参画していただいて、その農業団体に所属する農業者に、実証に参加いただくことも可能です。その場合、実証に参画して経営分析を行う農業者(経営体)を特定していただければ、その農業団体の一部の生産者のみ実証に参画していただくということが可能です。

Q21 実証目標の「(1) ローカル5Gを用いることで達成できる技術についての定量的な目標」にはどのような内容を記載すればよいでしょうか？

A21 ローカル5Gの機能(大容量通信、低遅延性等)に関する目標について、緊急停止時の遅延〇ms以内となるため、停止距離が〇m以内になるといった、営農に資する目標としてわかりやすい記述をお願いします。

Q22 実証目標の「(2) 作業集約化等を効果的・効率的に進めるための機械等の稼働面積や導入・運用コスト等に係る定量的な目標」と「(3) 生産者における生産コスト低減、収量・品質の向上等の生産技術に係る定量的な目標」におけるコストについての目標の違いは何でしょうか？

A22 (2)では、スマート農業技術を利用するために必要な運用コストに関する目標を、(3)では、スマート農業技術を利用したことによる経営改善効果に関する生産費に係る目標をそれぞれ記載いただくことを想定しています。

Q23 実証目標の「(3) 生産者における生産コスト低減、収量・品質の向上等の生産技術に係る定量的な目標」では、すべての生産者で設定する必要があるでしょうか？

A23 実証に参画していただいて経営分析を行う生産者において目標を設定してください。

Q24 実証目標の「(3) 生産者における生産コスト低減、収量・品質の向上等の生産技術に係る定量的な目標」において、全ての生産者に対して同じ目標を設定することは問題ないでしょうか？

A24 全ての生産者で同一とすべきか、個々に設定するかは、実証内容によってご判断ください。